

但馬・丹後での『協同労働』の取り組み



兵庫県	若者サポートステーション豊岡 (豊岡市幸町)	厚生労働省認定事業 地域若者サポートステーション 但馬の取り組みは2009年に、ここからスタート 困難を抱えた若者を通して、地域の課題を発見する場
	森の学校『だんだん』 (豊岡市竹野町椒(はしかみ))	地域活動支援センターⅢ型(農林業、伝統工芸) 生きこみさを抱えた若者が仕事に向かう訓練の場
	森の百業『Next Green 但馬』 (豊岡市竹野町椒)	自伐型林業(森林管理、林産物、子どもの野生復帰) 地域資源を活かして山村地域に働ける場を生み出す
	生活困窮者自立支援事業 (香美町、新温泉町)	生活困窮者自立支援モデル事業 兵庫県北部の郡部における生活困窮者の相談と就労支援
京都府	就労体験による居場所づくり事業 (京丹後市弥栄町黒部)	社会的孤立者等居場所づくり事業 生活困窮問題と地方創生を結ぶ小規模多機能拠点づくり
	都市農村交流 (京丹後市・大阪市西成区ほか)	農業を中心とした生活困窮者支援 大阪西成区やフードバンクと京丹後市内の農家や畑を結ぶ
	ひきこもり相談窓口『ひととわ』 (京丹後市久美浜町)	京都府ひきこもり訪問応援「チーム絆」地域推進事業 丹後地域(京都府北部2市2町)のひきこもり相談窓口
	与謝野町の居場所『かえでのわ』 (与謝野町)	ひきこもりかたかなの居場所 様々な体験などを通して、意欲喚起などを行う拠点

森の仕事 子どもたちの体験の場を増やす

自然の多様さ学び、世界広げて

たじま

但馬地域福祉事業所（企業組合労協センター事業団）

- ◆事業内容：サポステ、BDF 事業、林業、地域活動支援センターほか
- ◆所在地：兵庫県豊岡市

2009年、豊岡市で地域若者サポートステーション事業を開始。10～12年、基金訓練社会的事業者コース（地域の担い手育成）、兵庫県委託公共職業訓練（ヘルパー講座）などを実施。12年には、BDF（バイオディーゼル燃料）事業「但馬油田 風の学校円（まどか）」を開所。同年10月から兵庫県の公共職業訓練「新エネルギー環境コース」を実施し、このコースを卒業した数人で、森林資源を活用した事業を行う「NextGreen 但馬」を立ち上げた。

子どもたちの遊びと山の資源

ネクストグリーン NextGreen 但馬では、作業道作りをし、間伐、収材、搬出をしています。このような仕事をしている中で2つの課題が浮かびました。

1つ目は、子どもたちについて。今の子どもたちの遊びの質が、低下しているように思われます。好きな遊びは、ほとんどの子がテレビやゲーム。お店に行けば何でも買え、あまり考えたり作り出すことをしなくなりました。そして、遊び場の減少です。自然豊かな田舎に住んでいても、川で遊んではダメ、山に入ってはダメ。自然と触れ合える場所は意外と少ない。子どもたちの体験の場が不足しているように思われます。

そしてもう1つは、山林について。ほとんどの山が整備されず、山の資源も使われずに放置されています。その結果、ますます荒れて人が寄り付かなくなってしまう。

元気があり余っている子どもたちと、整備されず誰も寄り付かなくなった山の問題を合わせてみると、何かおもしろいことができるのではと考えました。

山には沢や湧き水、岩場や樹木のジャングルジム、子どもたちの冒険心を刺激する遊び場や資源がたくさん。使わないなんてもったいない。山には危険がたくさんあるからこそ、学べる部分が多いと思います。歩き方一つにしても、アスファルトの地面と同じように歩けばつまずいてコケます。足下ばかり気にしていると枝が刺さります。常に周囲に気を付けながら歩くだけでも眠っている五感が働きます。

危ないものを遠ざけることは逆効果で、山は最高の学

びの場だと思います。そこで一番に思いついたのが、体験型のイベントでした。

森の魅力を直に感じて

自分たちが施業してきれいになった山に子どもたちを招待しました。「森の博士になろう！森まるごと勉強会」という森についての学習や体験ができるイベントと、「バンブーチャレンジ」という増え続ける竹林の有効利用について考え、挑戦するという内容のイベントです。

Facebook での告知や近隣小学校へのチラシ配布などで呼びかけ、森林・山村多面的機能発揮対策交付金（林野庁）の補助金と参加費（500円程度）をもとに実施。親も含めて毎回40人前後の参加者があり、数人の地域のボランティアの方が昼食の準備などを担ってくれています。

「森の博士になろう！森まるごと勉強会」は、16年11月に「初級編」を行い、以後年1回実施しています。子どもたちと登山をしながら森の地図や樹木の図鑑作り、宝探しゲームや川遊びをしています。今年は「上級編」として、ノコギリを使った間伐体験やクラフト制作をしました。自分たちの手で木を伐り倒す達成感、木の硬さ、香り、質感を直に感じてもらいました。

18年5月には地元の人々の協力のもと、初めて「バンブーチャレンジ」を行いました。竹林についての学習をし、竹食器を作り、電気やガスを使わない竹ご飯作りも。自分たちで作った竹食器で竹カレーを食べました。

体験型のイベントのほかに、昔は生活に欠かせなかつ



介子どもたちが木を伐る。学校では教えてもらえない技術

⇒薪を燃やして、竹筒に入れたご飯を炊いた



⇐「森の博士になろう！」イベント。体験型イベントでは、子どもたちは五感を使って楽しむ。「木を伐るの楽しかった」、「山歩きって気持ちいい！」などの声が



⇐休暇村に設置されたスペースでは、木片や木の実などを使ってクラフト制作

た山の資源を活かすことにしました。木工品の制作・販売をすれば森や木のよさをアピールできると同時に、NextGreen 但馬の活動アピールにもなり、間伐の際に出る端材の有効利用にもなると考えました。

18年7月、夏休みに間に合うように、市内の休暇村(宿泊施設)のロビーに、好きな時間にいつでも体験できる「森のかげら体験工房」を設置しました。クラフト制作で子どもたちの想像力を高め、自然への関心を深めてもらうことを目的にしています。200～500円の有料体験ですが、現地で枝や葉っぱを拾ってアレンジすることも大歓迎です。「買って来たものでしか遊べない」ではなく、子どもたちが本来持っている想像力で何倍にも広げていってほしいと思っています。

このようなイベントを通じて、森にはたくさんの遊び場、資源があるということ、多様な植物、生き物、きれいな水、空気があることを学び、森の大切さを知ってもらいました。そして、川遊びやクラフト制作を通じて想像力を膨らませ、自然の中にある遊びの楽しさに気づいてもらえたらと思っています。子どもが中心ですが、大人も夢中になります。課題は、このような活動をどうやって広げていくかです。

子どもたちの可能性広げる仕事に

こうした取り組みで地域の方と協力することによって、地域の方との距離感が近くなり、ちょくちょく事務所に顔を出してもらったり、野菜を持ってきてもらったりという関係ができました。

すぐに成果を出すのは難しいですが、このような活動の意味を次のように考えています。子どもたちは、いろんな体験を通じて達成感を味わいます。そして自信が生まれ、自分の可能性を知ります。自分の可能性に気がついたとき、世界がぐっと広がり、挑戦できる子どもに成長できると思います。

これからの目標は、市民がいつでも自然を身近に感じられる森林公園や、自然の中で体を動かして思いっきり活動できるプレイパークや森のようちえんのような場所を作りたいと思っています。

私にとって森の仕事とは、可能性のかたまりです。NextGreen 但馬にしかできない林業の形。木を伐るだけではない、森の活用を外部に提案して実行する、人と森の懸け橋のような存在を目指したいと思っています。

(NextGreen 但馬 名城千鶴)

周辺地域におけるこれまでの活動状況

NPO 法人 ワーカーズコープ
NextGreen 但馬

1. 団体活動概要と理念

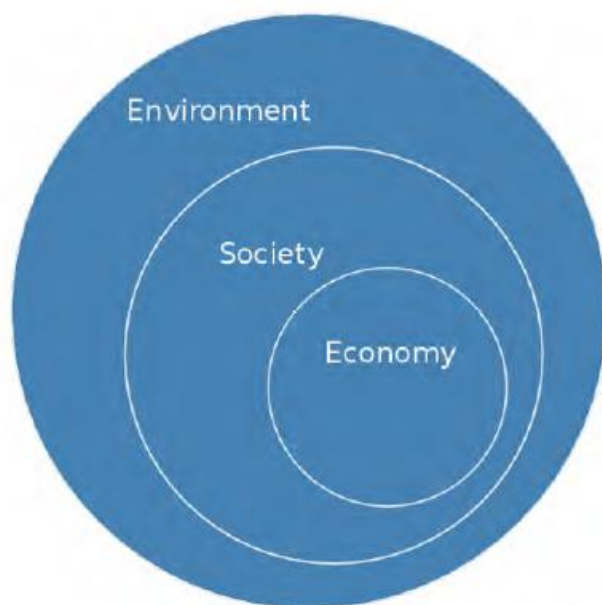
当団体は、働く人々・市民が皆で出資し、経営に参画し、責任を分かち合って働く、協同労働の協同組合です。ワーカーズコープは、地域課題や地域資源をテーマとし、地域にコミュニティを形成していく事を理念としております。

全国的には、多様な事業に取り組んでいますが、子ども・若者・障がい児者・高齢者など、人の「学び・育ち・はたらく」を一体的に捉えた地域活動を進めています。特に子ども関連事業に取り組む上で大事にしていることは、人間の関係の土台に、「自然の中の人間（社会）がある」という体感を重視し、「自然体験」や「文化継承」、「食を巡る地域の1次産業や地域流通」に触れることです。子どもたちを「育てる」という視点ではなく、「育つ力を育む」「育ちあう関係性を育む」場として森林での活動が大きな意味を持つと私たちは捉えています。

地域の豊かな自然、とりわけ森林資源を活かした、野外体験プログラムを実施し、「森のようちえん」の取り組みのように、子どもたちの創造性や主体性を深めていきたいと考えております。またこうした事業から、自然を守る取り組みの担い手が広がることを展望しています。

そして、開放的な環境で子どもたちが協同して活動することで、豊かな人間関係を育み、一人ひとりの自己肯定感が高まることで、新しいことへの挑戦心を醸成するとともに、環境への理解が深まる「持続可能な開発のための教育（ESD）」としても大変に有用であると考えています。

こうした実践を通じて、既存の経済・社会・環境の関係を逆転させ、環境の中に社会があり、その社会の維持・発展のために経済がある、という持続可能な地域づくりにつなげていくことを目標として2018年3月にSDGs宣言（https://jwcu.coop/2018/03/26/special_sdgs/）を行い、積極的に実践を展開しております。



2. 周辺地域での活動状況と事業提案に至る背景

本事業提案地域となる兵庫県豊岡市においては、就労困難な若者の自立と就労を支援する「地域若者サポートステーション」から始まり、若者たちの仕事おこしをテーマとしながら、環境保全型の林業やバイオディーゼル燃料製造、若者・障がい者等の就労支援や職業訓練に取り組んできました。

2012年に『次世代に遺す山づくり』を掲げた環境保全型の林業グループ『NextGreen 但馬』を始めからは、毎年のように市民への環境学習として「森の健康診断」や「森の博士になろう」、「パンブーチャレンジ!」などのイベントを開催してきました。特に2016年からは、親子で整備された森林を散策し、豊岡の豊かな森を守っていく重要性と、自然の中の多様性を知ることができるイベントを開催しております。2017年11月と2018年5月に開催したイベントでは、他県から参加される方もあり、定員20名の倍となる40名以上の参加者が集まり、川・海を育む源となる山の重要性和価値について楽しみながら学び合うことができました。

そうしたなか、豊岡市が作成している、市内から都市部へ向けて進学・就職する若者へ向けたメッセージ「わかもの巣立ち応援プロジェクト2018」のポスターに採用されました。【別紙1】

子どもや若者に対して地域の森林資源の豊かさや価値、重要性を伝えてきた私たちの取り組みが認められたものと受け止めております。また、2019年度は豊岡市子どもの野生復帰事業（単発型体験プログラム）実施業務に採択され、子どもたちが森林のなかで冒険心と創造力を育む年4回のプログラムを実施しました。【別紙2】

そのなかで、豊岡市加陽地区にある「加陽水辺公園」を活用してイベントを実施しました。加陽水辺公園は、コウノトリ野生復帰や河川の自然再生といった、人と自然の共生を学び感じられる拠点であり、様々な地域の方が利用される目的で整備されております。

その周辺の山には山城跡や古墳が多数存在し、地域の方々にとってもシンボリックな存在である様子でしたが、以前に整備された遊歩道は長年整備されないままに放置され、竹が侵入して遊歩道もわからなくなってきていました。結果として遊歩道の利用は少なく、展望台なども木々が生い茂っている状況でした。

そこで、コウノトリ野生復帰や河川の自然再生、新しいライフスタイルデザインなど、人と自然の共生を象徴する拠点として整備されている「加陽水辺公園」周辺の山林を現在の状態で放置するのではなく、様々な方が自然に触れ合うことのできる場として再生し、特に次世代を担う子どもや若者の環境学習の場として活用していくことを豊岡市へ提案し、森林整備の許可や地域への説明に協力いただいて地域住民の理解も得ることが出来ました。

現在、整備地域を活用して「森のようちえん」として、地域の子どもたちが自然の中で学び育ちあうことのできる環境として活用するために、そうした取り組みに関心のある市民や自治体職員と定期的に会議を開催し、“コウノトリの野生復帰”に成功した豊岡市ならではの、“子どもの野生復帰”の環境づくりを発信できる場へ発展させるために協議を続けています。

3. 全体構想と今後の展望

事業完了後は当団体が主体となって整備地を管理します。2021 年度を目標に「森のようちえん」の開設を目指します。あわせて、人々が気軽に森と触れ合える場所や様々な森林体験が行える場所として、フィールドの整備を進めます。

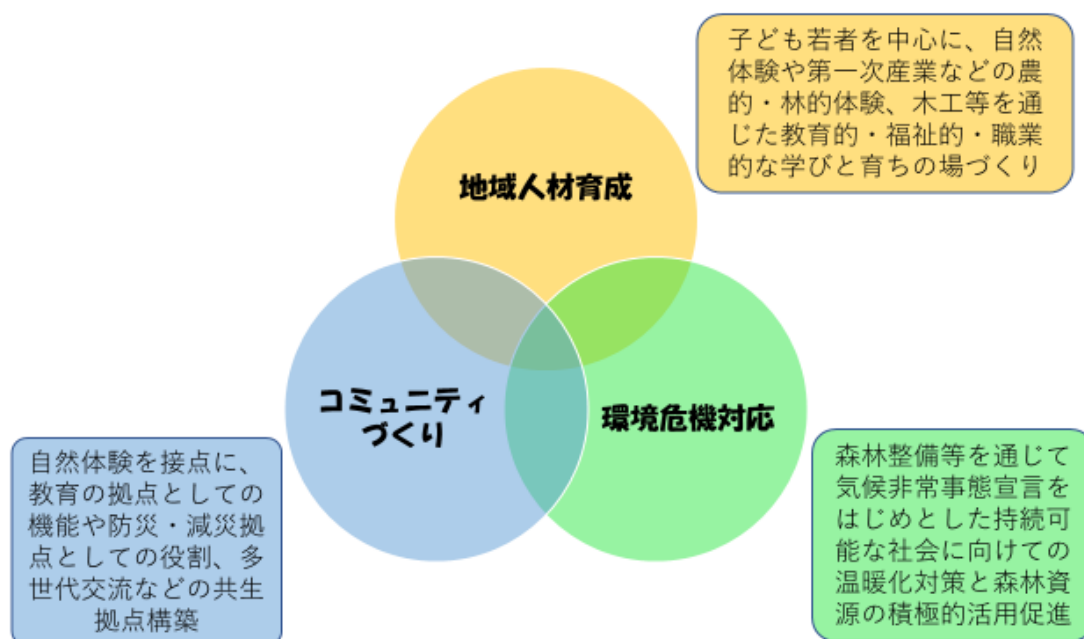
そうした整備の過程で、参加者に対して自然体験や環境教育を行い、長期的には「森のようちえん」や「プレーパーク」等の、自然体験や環境教育に取り組む指導者も育成できるような場としても活用していきたいと思います。

その後は、「加陽水辺公園」とも協同して、地域コミュニティとともに知識や技術の継承も含めた教育や多世代交流の場のほか、子どもや若者を中心とした学びと育ちの場を形成し、「持続可能な開発のための教育」を全世代的に展開していく拠点へと発展することを目指します。

そして全国組織として、事業の経験を基にして他地域でも同様の取り組みを展開できるように体系化していくことも見据えていきます。同時に、加陽湿地および加陽水辺公園はラムサール条約に指定され、国土交通省と豊岡市が保全と広い利活用を推進しているため、そうした動きにも連携して全国的、さらには国際的な自然共生の学習の場として機能していけるように、今後も行政との協同を深めていきます。

資金面では「森のようちえん」を様々な制度を活用しながら事業化するとともに、市の森林環境税等の活用を提案するほか、森林・山村多面的機能発揮対策交付金なども検討しながら活動を継続していくことが出来るように、この1年を通して多様な制度活用も検討していきます。

兵庫県豊岡市周辺地域での事業構想



本提案は、こうした構想の1年目として、市民とともにフィールドを整備する中で環境教育を進め、2021年度の“体験拠点”本格稼働に向けた準備の期間となります。